全国秋葉新聞

北海道 東北 北陸 編

3年生

班員名
木野竜登
鈴木祐輝
長谷川舜
松山亜香音

震災を乗り越えて 厚真神社（北海道勇払郡厚真町新町）

明治26年、富山県から幅田九郎兵衛という人が来村し、現在の厚真町朝日地区を調査しました。翌27年、4世帯の農民とともに開墾を行い、さらに翌28年、中心地に八幡神社が建立されました。これが厚真神社の起源です。その後、明治33年に現在の厚真町新町に移転・造営されました。明治38年5月には、主祭神として天照皇大神が祀られ、厚真神社が創立されました。

明治43年、遠州秋葉神社の祭神が勧請・合祀されました。翌44年、愛知県出身の有志により火災防護の祭儀が開始され、昭和23年には「厚真神社秋葉講」が正式に発会しました。秋葉講では、毎年11月16日に講員が参列し祭儀を行っていました。しかしながら、平成30年に発生した北海道胆振東部地震により社殿は甚大な被害を受け、これ以降は中止となっていました。令和4年11月16日の祭儀を最後に、秋葉講は解散しました。

参拝者数は年間3000人程度で、正月の参拝者が多いです。上記の地震により大きな被害を受けましたが、多くの人々からの支援により、令和4年に復旧しました。

私の住んでいる静岡県から北海道までは大変遠い距離がありますが、それほどに火除けの神様は重要で、影響力のあるものなのだということがわかりました。（松山）

勇猛な神々の宿る場所 秋葉山神社（青森県八戸市白銀町大沢片平）

青森県八戸市の秋葉山神社にはヒノカグツチという神が祀られており、火難や厄除けなどのご神徳があります。ほかにはスサノオという神も祀られており、こちらはカグツチの次男、アマテラスの弟でもあります。スサノオは、暴れることが多い一方で、家内の安全や、病気を防ぐご神徳でも知られています。暴れることが多かったというカグツチやスサノオが、火難や厄除け、病気除けの神様として祀られているのは興味深いと感じました。秋葉山本宮の火祭りに似たお祭りがあるほか、月次祭、地鎮祭、神葬祭、人生儀礼祈祷などさまざまな祭事があります。（鈴木）

人々の悲願を、今に伝える 秋葉神社（岩手県奥州市江刺南大通り）

岩手県奥州市江刺区には、かつて消防組織がなかったために度々火災が発生し、気候条件によっては大規模な火災となることがしばしばありました。とりわけ1731年には多くの火災が発生し、これらに対処するため、消防組などが組織されました。また、こうした大火に対し人々は神仏に火防を祈願し、町が惨事に見舞われた際、復興へと喚起するための祭事を求めたことから、1822年に遠州より秋葉大権現の分霊を勧請されたといわれています。

主な祭事は、12月に本殿で行われる火祭りです。これとは別に、5月3～4日には「江刺甚句まつり」というお祭りがあります。住民が参加する「江刺鹿踊」や、目を引く豪華な「町内屋台」などが有名で、多くの人々でにぎわい、火伏や無病息災を祈ります。

この「江刺甚句まつり」の源流には、3つの大きな例祭があります。1つ目は旧暦3月9日にある大山神社の「大山祭」です。15mにもおよぶ山車を作り、150人が担いで町内を練り歩きました。最古の記録は明治35年4月で、これは明治の末期まで続いたと考えられています。

2つ目は明治～昭和初期まで続いた裏町（現・前田町）稲荷神社の「稲荷祭」です。町内の芸妓たちが印半纏に股引姿で山車を引き、数千人の参詣者があったとされています。また、昭和初期には囃子手踊りや仮装行列もありました。南町の五十瀬神社では火渡式が行われ、火防の意味も込めた祭りへと発展しましたが、戦時中に休止されて以来、開催されていません。

3つ目は、旧暦1月24日の「秋葉神社火防祭」です。厄払いの祈祷式と火防祭が行われます。戦時中も継続され、昭和38年に「岩谷堂火防祭」、昭和45年に現在の「江刺春まつり」に改称されました。（木野）

幕府からも信頼あつく 秋葉神社（新潟県新潟市中央区古町通）

新潟県新潟市の秋葉神社の発祥は、秋葉大権現を祀る円寿山万善寺という寺に由来します。1600年代の新潟町は今より浜の方にありましたが、1654年に幕府から移転の許可がおり、今の東堀・西堀・五菜堀ができました。町も1000戸を超え、寛文元年（1661）に現在の場所に移転しました。天保14年（1843年）、江戸幕府は新潟町を直轄領とし、火伏の守護神を祀るこの寺に「三つ葉葵」の神紋を授けました。明治時代になると、神仏分離の命により「秋葉神社」となりました。

火産霊神を祀る神社であり、火難のご利益があるといわれています。人口が増えるに従い火災も増えたため、昔の人はこの神社を「火伏せの守護神」としてあがめました。同時に、町の出入口に災難や病が来ないように願って庚申塔を建てて祈りました。四ツ屋町開運稲荷に移された庚申塔は現在も残っており、年代が確認できるものとしては県内で最も古いものだそうです。昭和60年4月30日には、近所一帯が火災に見舞われましたが、本殿の前で火がストップしたため「さすが火伏せの神社」と新聞で紹介されました。地域の人々に崇敬され、静かな祈りの場となっています。

参拝客が多い季節は例年12月～1月で、他地域の方々も多く参拝されます。秋葉神社に取り付けられている大〆縄は、西区小新の〆縄師の方々が毎年寄進してくださるものです。こちらの神社では、秋葉山本宮を本宮と仰ぎ、12月15日に本宮で行われる「御阿禮祭」に毎年参列されています。

新潟県内には他にも秋葉神社があります。新潟市秋葉区には、もともと「田家山」という山がありましたが、秋葉神社を祀ったことから「秋葉山」と呼ばれるようになり、区名も秋葉区になりました。（長谷川）